

**Microsoft®
Windows Server™ 2003 R2,
Standard Edition/
Microsoft®
Windows Server™ 2003 R2,
Enterprise Edition**

インストール補足説明書
for Express5800/120Lh

はじめに

本手順書は、**Windows Server 2003 R2 for Express5800/120Lh 対応 NEC差分モジュール**を使用して、「Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard Edition / Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise Edition 日本語版」(以降、「Windows Server 2003 R2」と呼ぶ)をインストールする方法について記述しています。

Windows Server 2003 R2 をインストールする前に、必ず最後までお読みください。

注意 Windows Server 2003 R2 for Express5800/120Lh 対応 NEC 差分モジュールは、Express5800/120Lh 対応の専用モジュールです。
他の装置ではご使用できません。

■ Windows Server 2003 R2へのアップグレードについて

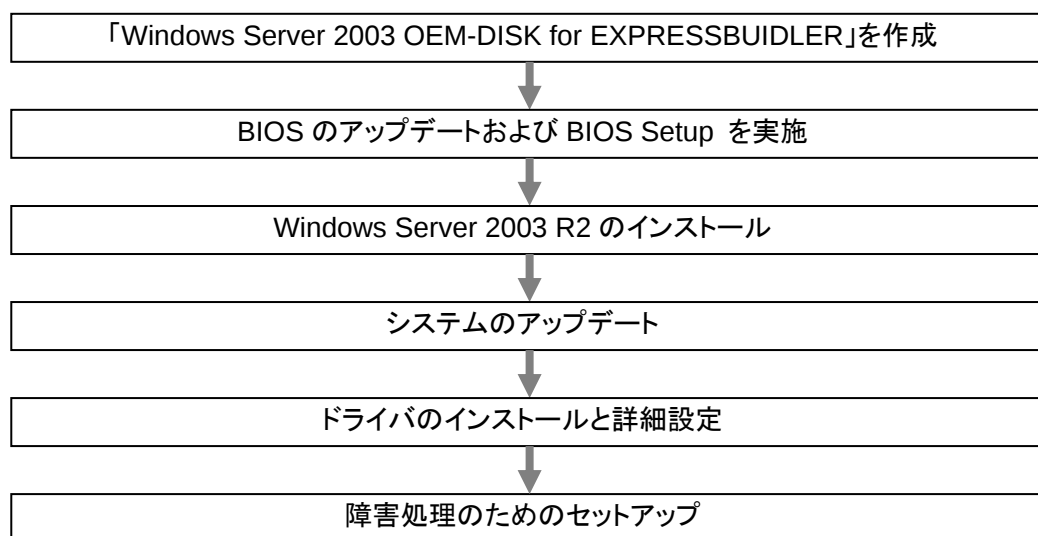
Windows Server 2003 からWindows Server 2003 R2へのインプレースアップグレードは、ファイルやレジストリを上書する場合があるため、システムやアプリケーションへ思わぬ影響を与える可能性がありますので、推奨しません。

Windows Server 2003 R2をご使用になる場合は、「**Windows Server 2003 R2のインストール**」を参照し、事前に必要なユーザデータのバックアップを取り、Windows Server 2003 R2をインストールしなおしてください。

ヒント インプレースアップグレードとは、既にインストールされている Windows Server 2003 自身を Windows Server 2003 R2 へ上書きアップグレードすることです。

Windows Server 2003 R2 インストール手順概略

Windows Server 2003 R2 のインストール方法概略図を以下に示します。



Windows Server 2003 R2 をインストールするための準備

■ インストールに必要なもの

Windows Server 2003 R2 インストールを開始する前に、以下の媒体と手順書がそろっていることを確認してください。

- **Windows Server 2003 R2 for Express5800/120Lh 対応 NEC 差分モジュール**
(以降、「NEC 差分モジュール」と呼ぶ)

『NEC8番街』 <http://nec8.com> →

[サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)]を参照し、入手してください。

- **Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER**
(または 1.44MB フォーマットの 3.5 インチフロッピーディスク1枚)
作成方法は“「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成”(本書)を参照してください。
- **Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Standard Edition / Microsoft® Windows Server™ 2003 R2, Enterprise Edition**
インストール補足説明書 for Express5800/120Lh (本書)
- 次のいずれかを用意してください。
 - ーバックアップ CD-ROM Windows Server 2003 R2, Standard Edition DISC 1
(以下、「バックアップ CD-ROM」と呼ぶ)と
Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition DISC 2 (2 枚組)
(以下、「Windows Server 2003 R2 DISC 2」と呼ぶ)
 - ーバックアップ CD-ROM Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition DISC 1
(以下、「バックアップ CD-ROM」と呼ぶ)と
Microsoft Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition DISC 2 (2 枚組)
(以下、「Windows Server 2003 R2 DISC 2」と呼ぶ)
 - ーMicrosoft Windows Server 2003 R2, Standard Edition DISC 1
(以下、「Windows Server 2003 CD-ROM」と呼ぶ)と
Microsoft Windows Server 2003 R2 Standard Edition DISC 2 (2 枚組)
 - ーMicrosoft Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition DISC 1
(以下、「Windows Server 2003 CD-ROM」と呼ぶ)と
Microsoft Windows Server 2003 R2 Enterprise Edition DISC 2 (2 枚組)
- Express5800 シリーズをお買い上げ時に添付されているもの
 - ー **EXPRESSBUILDER CD-ROM**
 - ー **ユーザーズガイド**
(EXPRESSBUILDER CD-ROM 中のマスターコントロールメニューから「オンラインドキュメント」を参照してください)

■ NEC 差分モジュールのダウンロードについて

「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」を作成する場合や、「システムのアップデート」を行うときは、あらかじめ以下の手順で Express5800/120Lh 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。

- (1) 次の URL の OS 関連のページを参照し、Express5800/120Lh 対応の NEC 差分モジュールをダウンロードしてください。
『NEC8番街』 <http://nec8.com>
→ [サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)]
- (2) モジュールをダウンロード後、ハードディスク上の任意のフォルダに展開する。
(例:C:¥TEMP)

注意 ダウンロード先のフォルダには、空白文字を含むフォルダは指定できません。

■ 「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成

インストールを始める前に「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」と呼ばれるフロッピーディスクが必要です。

以下の手順にしたがって作成してください。

ヒント 「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」(本装置用)を作成済みの場合は、再度 作成する必要はありません。

次の手順で作成します。

- (1) 1.44MB フォーマット済み 3.5 インチの空フロッピーディスクを1枚用意する。
- (2) オペレーティングシステム(OS)を起動する。
- (3) NEC 差分モジュールをダウンロードする。
(「NEC 差分モジュールのダウンロードについて」(本書)参照)
- (4) フロッピーディスクドライブに、フロッピーディスクをセットする。
- (5) 以下のフォルダ配下の全ファイルをフロッピーディスクにコピーしてください。

＜展開先フォルダ名＞¥WINNT¥OEMFD¥DOTNET¥FD1

コピー終了後、
「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」の作成は完了です。

作成した「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」は、ライトプロテクトをし、ラベルを貼って大切に保管してください。

注意事項

Windows Server 2003 R2 をインストールする前に注意事項をよく読んでください。

■ ライセンス認証の手続きについて

バックアップCD-ROMを使用する場合、ライセンス認証済みの状態でインストールされます。その他のOS CD-ROMを使用する場合、Windows Server 2003 R2のライセンス認証の手続きが必要です。手続きを行う際に使用するプロダクトキーは、Windows Server 2003 R2に含まれるCOAラベルに記載されたものと一致させる必要があります。

重要

- インストールしてから 30 日以内にアクティベーションを行ってください。30 日間を過ぎると、システムがロックされる場合があります。
- COA ラベルは本体に貼り付けられている場合があります。

■ NEC差分モジュールがサポートしているオプションボード

NEC差分モジュールでサポートしているオプションボードは、以下になります。

- NEC差分モジュールにてOSのインストールをサポートしているボード
 - － N8103-80 ディスクアレイコントローラ(1ch)
 - － N8103-81 ディスクアレイコントローラ(2ch)
 - － N8103-86 ディスクアレイコントローラ(0ch)
 - － Adaptec HostRAID(SCSI)(マザーボード上のコントローラを使用)
- その他のオプション
 - － N8103-56 SCSIコントローラ
 - － N8103-65 SCSIコントローラ
 - － N8103-75 SCSIコントローラ
 - － N8103-95 SCSIコントローラ
 - － N8190-126 SCSIコントローラ

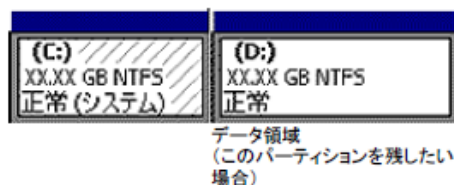
■ ディスク構成について

ディスク領域に、「EISA構成」と表示された領域が存在する場合があります。構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。



■ ダイナミックディスクへの再インストールについて

ダイナミックディスクにアップグレードしたハードディスクドライブに再インストールする際、OSをインストールするパーティション以外にパーティションが存在し、そのパーティションを残したい場合は、次の点について注意してください。



- OSをインストールするパーティションには、前にOSをインストールしていたパーティションを選択してください。
- OSパーティションのフォーマットについては、「現在のファイルシステムをそのまま使用（変更なし）」を選択してください。

■ MO装置について

インストール時にMO装置を接続したままファイルシステムをNTFSに設定するとファイルシステムが正しく変換されない場合があります。
ファイルシステムが正しく変換されなかった場合は、MO装置を外してインストールを最初からやり直してください

■ DAT等のメディアについて

セットアップでは、DAT等のインストールに不要なメディアはセットしないでください。

■ BIOSのアップデート

Windows Server 2003 R2 をインストールするためには、EXPRESSBUILDER CD-ROMを用いて、Windows Server 2003 用 のBIOS のアップデートが必要な場合があります。
BIOSのアップデートが必要かどうかは、『NEC8番街』 <http://nec8.com> → [サポート情報] → [ダウンロード(Express5800)]を参照し、対応モジュールの有無を確認してください。
また、アップデート手順に関しては、各装置のBIOS ダウンロード時の紹介文、およびダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。

■ 作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションのサイズは、次の計算式から求めることができます。

インストールに必要なサイズ + ページングファイルサイズ + ダンプファイルサイズ
+ アプリケーションサイズ

インストールに必要なサイズ = 3500MB
 ページングファイルサイズ(推奨) = 搭載メモリサイズ × 1.5
 ダンプファイルサイズ = 搭載メモリサイズ + 12MB
 アプリケーションサイズ = 任意

重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合がありますため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 1 つのパーティションに設定できるページングファイルサイズは最大で 4095MB です。搭載メモリサイズ × 1.5 倍のサイズが 4095MB を超える場合は、4095MB で設定してください。
- 搭載メモリサイズが 2GB 以上の場合のダンプファイルサイズの最大は「2048MB+12MB」です。
- その他アプリケーションなどをインストールする場合は、別途そのアプリケーションが必要とするディスク容量を追加してください。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、パーティションサイズは、前述の計算方法から

$3500\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + 512\text{MB} + 12\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ} = 4792\text{MB} + \text{アプリケーションサイズ}$

となります。

システムをインストールするパーティションサイズが「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」より小さい場合はパーティションサイズを大きくするか、ディスクを増設してください。ダンプファイルサイズを確保できない場合は、次のように複数のディスクに割り当てることで解決できます。

- (1) 「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」を設定する。
- (2) 「障害処理のためのセットアップ」を参照して、デバッグ情報(ダンプファイルサイズ分)を別のディスクに書き込むように設定する。

ダンプファイルサイズを書き込めるスペースがディスクにない場合は「インストールに必要なサイズ+ ページングファイルサイズ」でインストール後、新しいディスクを増設してください。

■ マニュアルインストールについて

インストール作業中に[ハードウェアのインストール/ソフトウェアのインストール]のポップアップが2回表示される場合がありますが、システムの動作上、問題ありません。すべて[はい]をクリックして続行してください。

以降は、メッセージに従ってインストール作業を続けてください。

■ RAIDドライブの作成

Adaptec HostRAID(SCSI)を使用する場合は、インストール前にSCSI Select UtilityにてHostRAIDをEnabledとし、RAIDドライブを作成してください。RAIDドライブの作成方法については、ユーザズガイドのRAIDコンフィグレーションの項を参照してください。

オプションのディスクアレイコントローラを使用している場合は、ボードに添付されているマニュアルを参照してください。

1 Windows Server 2003 R2 のインストール

ここでは、**Windows Server 2003 R2** の新規インストール方法について説明します。
次の手順に従ってインストールします。

1. システムの電源を ON にする。

重要 Windows Server 2003 用の BIOS のアップデートが必要な場合は、アップデートを行ってください。BIOS のアップデートが必要かどうかは、『NEC 8 番街』
<http://nec8.com>→[サポート情報]→[ダウンロード(Express5800)]を参照し、
対応モジュールの有無を確認してください。

ディスプレイ装置の画面に POST (Power On Self-Test) の実行内容が表示されます。
(「NEC」ロゴが表示された場合は<Esc>キーを押してください。)
しばらくすると、次のメッセージが画面左下に表示されます。

Press <F2> to enter SETUP

2. <F2>キーを押し、BIOS Setup メニューの「Advanced」→「Installed O/S」を「PnP O/S」に設定する。設定方法は機種によって異なりますので、詳しくは装置の BIOS ダウンロードデータに含まれる「Readme.txt」を参照してください。
3. BIOS Setup メニューの「Exit」→「Save Changes & Exit」を選択し、[Yes]を選択してシステムを再起動させる。
4. バックアップ CD-ROM または Windows Server 2003 R2 CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットする。
5. バックアップ CD-ROM または Windows Server 2003 R2 CD-ROM を CD-ROM ドライブにセットしたら、リセットする(<Ctrl>+<Alt>+キーを押す)か、電源を OFF/ON して Express5800 シリーズを再起動する。

重要 ハードディスク上に起動可能な OS がインストール済みの場合は、画面上部に「Press any key to boot from CD...」が表示されている間に<Enter>キーを押してください。起動可能な OS が存在しない場合は不要です。

CD-ROM からシステムが立ち上がり、Express5800 シリーズが起動します。

Windows Server 2003 R2 のセットアップ画面が表示されます。画面が表示されなかった場合は、<Enter>キーが正しく押されていません。システムの電源を ON し直してから始めてください。

6. 画面上部に「Setup is inspecting your computer's hardware configuration...」が表示されている間に<F6>キーを押す。

ヒント

- <F6>キーを押しても、このとき画面上には何の変化もあわれられません。
- Adaptec HostRAID(SCSI)を使用している場合、事前に RAID ドライブを作成する必要があります。ユーザズガイドの RAID コンフィグレーションの項を参照してください。
- オプションのディスクアレイコントローラを使用している場合は、ボードに添付されているマニュアルを参照してください。

<F6>キーを押す必要のない場合は、手順 11 へ進む。

7. 以下のメッセージが表示されたら<S>キーを押す。

```
Windows Setup
=====

Setup could not determine the type of one or more mass storage devices
installed in your system, or you have chosen to manually specify an adapter.
Currently, Setup will load support for the following mass storage device(s):

    <none>

* To specify additional SCSI adapters, CD-ROM drives, or special
  disk controllers for use with Windows, including those for
  which you have a device support disk from a mass storage device
  manufacturer, press S.

* If you do not have any device support disks from a mass storage
  device manufacturer, or do not want to specify additional
  mass storage devices for use with Windows, press ENTER.

S=Specify Additional Device  ENTER=Continue  F3=Exit
```

以下のメッセージが表示されます。

```
Windows Setup
=====

Please insert the disk labeled

Manufacturer-supplied hardware support disk

into Drive A:

* Press ENTER when ready.

ENTER=Continue  ESC=Cancel  F3=Exit
```

8. Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER をフロッピーディスクドライブにセットし、<Enter>キーを押す。

SCSI アダプタのリストが表示されます。

9. [Adaptec Ultra320 SCSI Cards (Win XP/Server 2003 IA-32)] を選択し、<Enter>キーを押す。

手順7の画面に戻ります。

10. SCSI アダプタリストから以下のいずれを選択し、<Enter>キーを押す。

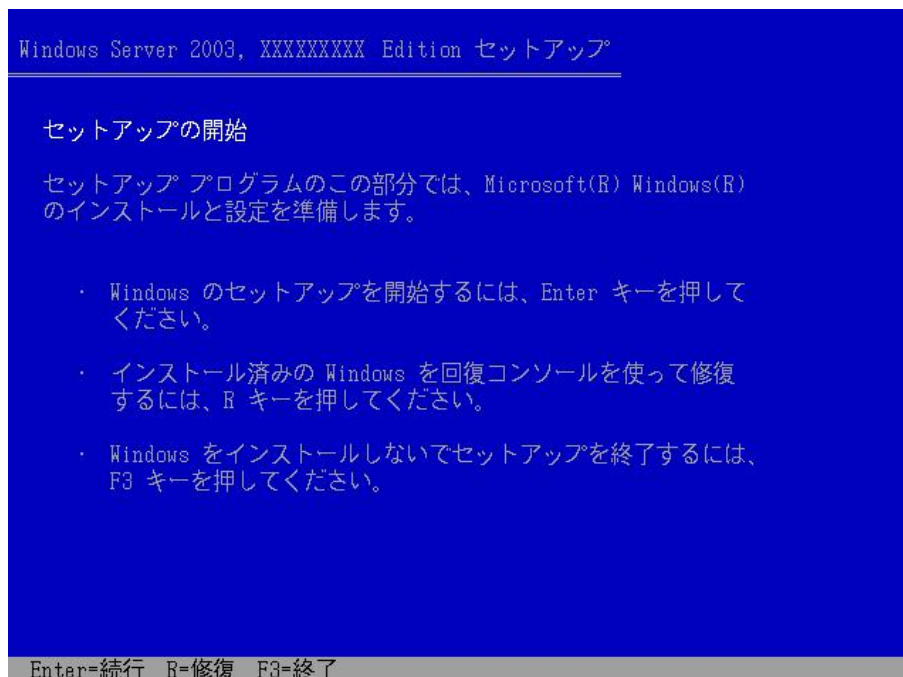
- N8103-80 の場合
[LSI MEGARAID Products for Windows 2003 (x86)]
- N8103-81 の場合
[LSI MEGARAID Products for Windows 2003 (x86)]
- N8103-86 の場合
[Adaptec I2O RAID Driver Disk for 32bit Windows 2000/XP/2003]
- Adaptec HostRAID(SCSI)の場合
[Adaptec HostRAID U320 Driver Ver 1.02 For Windows 2000/XP/2003]

重 要

- N8103-80/81 が装備されている場合、以下のメッセージが表示されたら、<S>キーを押して先に進んでください。

The driver you provided seems to be newer than the Windows default driver.
Windows already has a driver that you can use for
"LSI MEGARAID Products for Windows 2003 (x86)"
Unless the device manufacturer prefer that you use the driver
on the floppy disk, you should use the driver in Windows.

11. 以下のメッセージが表示されたら、<Enter>キーを押して、Windows セットアップを開始する。

**重要**

- セットアップの途中で、Windows Server 2003 R2 をインストールするパーティションを設定する画面が表示されます。このとき表示される先頭にある 55MB の領域は、Express5800 シリーズ特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションです。この領域の削除は推奨しませんが、55MB の領域を確保させたくない場合は、「D = パーティションの削除」で削除してください。
- 100,000,000MB(100TB)以上の領域を持ったディスクに Windows Server 2003 R2 をインストールする場合、デフォルト値のパーティションサイズ以外では、8 桁(99,999,999MB)以下の値しか設定できません。

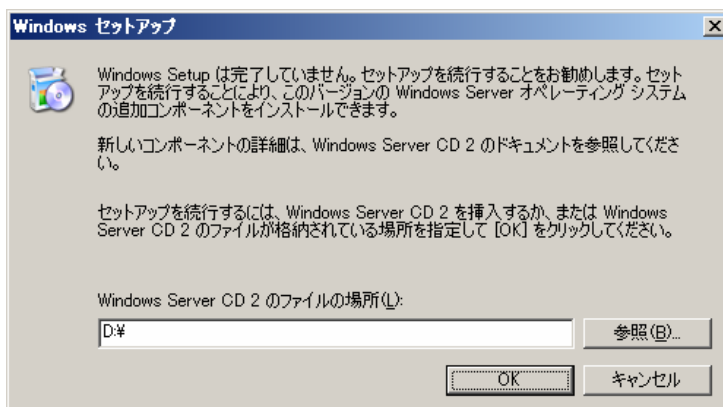
ヒント

ファイルのコピーの後、自動的に再起動します。フロッピーディスクおよび CD-ROM を取り出す必要はありません。ただし、フロッピーディスクを取り出さない場合は、CD-ROM も取り出さないでください。

以降は、画面の指示に従ってセットアップしてください。
詳細については、「ファーストステップガイド」を参照してください。

12. Windows Server 2003 R2 インストール後、自動的に再起動する。

13. システムにログオンした後、[Windows セットアップ]画面が表示される。



重要

- このとき、[Windows セットアップ]画面が表示されない場合がありますが、以降の手順に従って Microsoft Windows Server 2003 R2 DISC 2 を必ずインストールしてください。
- 「システムのアップデート」を行った後でも、Microsoft Windows Server 2003 R2 DISC 2 のインストールは可能です。必ず Microsoft Windows Server 2003 R2 DISC 2 をインストールしてください。このとき、[Windows セットアップ]画面 は表示されませんのでご注意ください。

14. Windows Server 2003 R2 DISC 2 を CD-ROM ドライブにセットする。
設定内容を確認し[OK]をクリックする。

15. インストール終了後、Windows Server 2003 R2 DISC 2 を CD-ROM ドライブから取り出し、再起動する。

16. Windows Server 2003 R2 インストール終了後、「システム管理者（例：Administrator）」の権限を持ったユーザーでログオンしてください。

17. システムのアップデートを参照して地域情報レジストリ書き込みファイルの実行とシステムのアップデートを行う。（「2. システムのアップデート」（本書）参照）

18. ドライバのインストールと詳細設定を参照してドライバのインストールと詳細設定をする。（「3. ドライバのインストールと詳細設定」（本書）参照）

2 システムのアップデート

Windows Server 2003 R2 のインストール後、必ず以下の手順で地域情報レジストリ書き込みファイル(JAPAN.REG)の実行と、システムのアップデートを行ってください。

NEC 差分モジュールをダウンロードしていない場合は、「Windows Server 2003 R2 をインストールするための準備」の「NEC 差分モジュールのダウンロード」を参照し、ダウンロードしてください。

重要 次の場合も必ずシステムのアップデートをしてください。

- システム構成を変更した場合
(内蔵オプションの機器の取り付け/取り外しをした場合。システム構成を変更した後、再起動を促すダイアログボックスが表示される場合は[いいえ]をクリックし、システムをアップデートしてください。)
- 修復プロセスを使用してシステムを修復した場合
- バックアップ媒体からシステムをリストアした場合

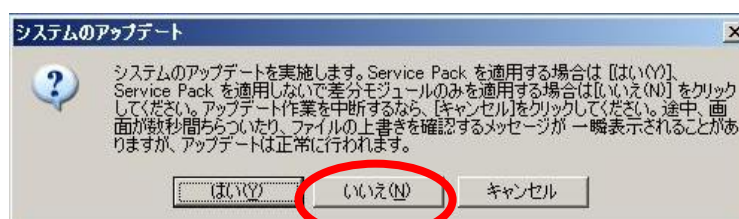
1. 管理者権限のあるアカウント(administrator 等)で、システムにログオンする。
2. 地域情報レジストリ書き込みファイル **JAPAN.REG** を実行する。

書き込み確認のメッセージが表示されるので[はい]を選択する。

3. <展開先フォルダ名>%WINNT%\DOTNET\UPDATE.VBS を実行する。
セットアップメッセージが表示されます。

画面のメッセージにしたがって作業を進めてください。

4. 以下のメッセージが表示されたら、[いいえ]をクリックする。
差分モジュールを適用します。



5. 以下のメッセージが表示されたら、[OK] をクリックしてシステムを再起動させる。



3 ドライバのインストールと詳細設定

本装置標準装備の各種ドライバのインストールとセットアップを行います。
ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはドライバに添付の説明書を参照してください。

■ PROSet

PROSetは、ネットワークドライバに含まれるネットワーク機能確認ユーティリティです。
PROSetを使用することにより、以下のことが行えます。

- － アダプタ詳細情報の確認
- － ループバックテスト、パケット送信テストなどの診断
- － Teamingの設定

ネットワークアダプタ複数枚をチームとして構成することで、システムに耐障害性に優れた環境を提供し、装置とスイッチ間のスループットを向上させることができます。
このような機能を利用する場合は、PROSetが必要になります。PROSetをインストールする場合は、以下の手順に従ってください。

1. エクスプローラを起動する。

[標準のスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[エクスプローラ]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順にポイントし、
[エクスプローラ]をクリックする。

2. 「<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥DOTNET¥BC5¥PROSET¥WS03XP32」
ディレクトリ内の「PROSET.EXE」アイコンをダブルクリックする。

[Intel(R) PROSet - Installshield ウィザード]が起動します。

3. [次へ]をクリックする。
4. [使用許諾契約の条項に同意します]を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [標準]を選択し、[次へ]をクリックする。
6. [インストール]をクリックする。
[InstallShield ウィザードを完了しました]ウィンドウが表示されます。
7. [完了]をクリックする。
8. システムを再起動させる。

以上で完了です。

チェック

ドライバおよびPROSetに関する操作は、必ず本体装置に接続されたコンソールから管理者権限 (Administrator 等) でログインして実施してください。OS のリモートデスクトップ機能によるリモートからの設定変更操作はサポートしていません。

■アダプタフォルトトレランス(AFT)/アダプティブロードバランシング(ALB)のセットアップ

アダプタフォルトトレランス(AFT)とは、複数のアダプタでグループを作り、使用されているアダプタに障害が発生した場合自動的にグループ内の他のアダプタに処理を移行させるものです。また、アダプティブロードバランシング(ALB)とは、複数のアダプタでグループを作り、サーバから送受信パケットをグループすべてのアダプタから行うことにより、スプールパケットを向上させるものです。この機能はAFT機能を含んでいます。

AFT/ALB機能を使用する場合は以下の手順に従ってセットアップしてください。

1. [コントロールパネル]ダイアログボックスで、[有線用Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。

[有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスが表示されます。

2. リスト中の「ドライバ名」にマウスポインタを合わせ、右クリックする。

メニューが表示されます。

3. [チームに追加]を選択し、[新規チームを作成]をクリックする。

[チーム化ウィザード]ダイアログボックスが表示されます。

4. 「アダプタ フォルト トレランス」または「アダプティブ ロード バランシング」を選択して[次へ]をクリックする。

5. [次へ]をクリックする。

6. チームにするアダプタをチェックして[次へ]をクリックする。

7. [完了]をクリックする。

[有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスに戻ります。

8. [適用]をクリックし、[OK]をクリックする。

9. システムを再起動させる。

重要

- AFT/ALB のセットアップは、ドライバインストール後、必ず再起動した後に行う必要があります。
- アダプタ フォルト トレランス(AFT)のグループとして指定するアダプタは、同一ハブ、異なるハブのどちらの接続でも使用できますが、異なるハブに接続する場合は、すべて同一 LAN(同一ネットワーク)上に存在する必要があるため、カスケード接続にしてください。
- アダプティブ ロード バランシング(ALB)を使用する場合は、スイッチングハブにのみ接続できます。
- マザーボードまたはオプションのネットワークボードを交換する場合、必ずチームを削除し、交換後にチームを再作成してください。

■ ネットワークドライバ

標準装備のネットワークアダプタは、システムのアップデート時に自動的にインストールされますが、転送速度とDuplexモードの設定が必要です。以下の手順に従って設定してください。また、IPアドレスを設定する際、[インターネットプロトコル(TCP/IP)]のチェックボックスが外れている場合、チェックを付けてからIPアドレスの設定を行ってください。

ヒント サービスの追加で、[ネットワークモニタ]を追加することをお勧めします。
[ネットワークモニタ]は、[ネットワークモニタ]をインストールしたコンピュータが送受信するフレーム(またはパケット)を監視することができます。ネットワーク障害の解析などに有効なツールです。インストールの手順は、ユーザズガイドを参照してください。

必要に応じてプロトコルやサービスの追加/削除をしてください。[ネットワーク接続]からローカルエリア接続のプロパティダイアログボックスを表示させて行います。

<PROSetがインストールされている場合>

1. 有線ネットワーク用Intel(R) PROSet]ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

スタートメニューから[コントロールパネル]→[Intel(R) PROSet]をクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

(1) スタートメニューから[設定]→[コントロールパネル]をクリックする。

(2) [有線用Intel(R) PROSet]アイコンをダブルクリックする。

2. リスト中の(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2)をクリックして選択する。
3. [速度]タブをクリックし、リンク速度とデュプレックス設定をハブの設定と同じ値に設定する。
4. [Intel(R) PROSet]ダイアログボックスの[適用]をクリックし、[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<PROSetがインストールされていない場合>

1. 「ローカル エリア接続のプロパティ」ダイアログボックスを開く。

[標準のスタートメニューモードの手順]

(1) スタートメニューから[コントロール パネル]→[ネットワーク接続]→[ローカル エリア接続](Intel(R) PRO/1000 MT NetworkConnection)または(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2)をクリックする。

[ローカルエリア接続の状態]ダイアログボックスが表示されます。

(2) [プロパティ]をダブルクリックする。

[クラシックスタートメニューモードの手順]

- (1) スタートメニューから[設定]→[ネットワーク接続]をクリックする。
- (2) [ローカルエリア接続]アイコン(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection)
または(Intel(R) PRO/1000 MT Network Connection #2)を右クリックし、ショート
カットメニューから[プロパティ]をクリックする。
2. [構成]をクリックする。

ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細設定]タブをクリックし、[リンク速度とデュプレックス]をハブの設定値と同じ値に
設定する。
4. ネットワークアダプタのプロパティダイアログボックスの[OK]をクリックする。

以上で完了です。

<再インストール>

ネットワークドライバは、自動的にインストールされます。手動でのインストールを行う必要
はありません。

■ オプションのネットワークのドライバ

オプションのネットワークボード(N8104-112/103/113/121/111/86)を使用する場合について説明します。

「N8104-112/103/113/121/111/86」を使用する場合は、下記の手順を参考のうえ**NEC差分モジュール**に格納されているドライバをインストールしてください。

「N8104-112/103/113/121」の場合

「<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥DOTNET¥BC5¥PRO1000¥WS03XP32」

「N8104-111/86」の場合

「<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥DOTNET¥BC5¥PRO100¥WS03XP32」

インストール手順が不明な場合は、インストレーションサブリメントガイドのネットワークドライバのインストール手順を参照してください。

「N8104-114」のネットワークボードを使用する場合は、添付されているCDかFDに格納されているドライバを使用してください。なお、インストール手順が不明な場合は、添付されているネットワークドライバのインストール手順を参照してください。

<オプションボード用ネットワークドライバのインストール>

1. デバイスマネージャを起動する。
2. [ネットワークアダプタ]→[Intel(R) PRO/1000～]または[Intel(R) PRO/100～]をダブルクリックする。

[Intel(R) PRO/1000～]または[Intel(R) PRO/100～]ダイアログボックスが表示されます。

ヒント • [?その他のデバイス]→[?イーサネットコントローラ]がある場合は
[?イーサネットコントローラ]をダブルクリックしてください。

3. [ドライバ]タブを選択し、[ドライバの更新]をクリックする。
[ハードウェアの更新ウィザード]が表示されます。
4. [一覧または特定の場所からインストールする(詳細)]を選択し、[次へ]をクリックする。
5. [次の場所で最適のドライバを検索する]を選択し、[次の場所を含める]にチェックを入れ、

「N8104-112/103/113/121」の場合

「<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥DOTNET¥BC5¥PRO1000¥WS03XP32」

「N8104-111/86」の場合

「<展開先フォルダ名>:¥WINNT¥DOTNET¥BC5¥PRO100¥WS03XP32」

6. [完了]をクリックする。

以上で完了です。

■ グラフィックスアクセラレータドライバ

標準装備のグラフィックスアクセラレータドライバは、システムのアップデート時に自動的にインストールされます。

重要 N8115-02 アドバンスドリモートマネジメントカードを装着してのリモート KVM コンソールの利用を標準でサポートしています。専用ドライバをインストールする必要はありません。

<再インストール手順>

1. スタートメニューから[プログラム]、[アクセサリ]の順でポイントし、[エクスプローラ]をクリックする。
2. 「<展開先フォルダ名>:\WINNT\DOTNET\VIDEO」ディレクトリ内の[SETUP.EXE]アイコンをダブルクリックする。メッセージに従って、作業を進めてください。

重要 途中、「デジタル署名が見つかりませんでした...」とのメッセージが表示される場合は、[はい]をクリックしインストールを続けてください。

3. 画面の指示に従ってシステムを再起動する。

■ SCSIコントローラ(N8103-65)を追加接続する場合

システムにSCSIコントローラ(N8103-65)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作しますが、ドライバは自動でインストールされません。
以下の手順でドライバをインストールしてください。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]—[管理ツール]—[コンピュータの管理]から[デバイスマネージャ]を起動する。
2. デバイスマネージャでその他のデバイスとして登録されているSCSIコントローラをダブルクリックする。
3. [ドライバの更新]をクリックする。
4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「一覧または特定の場所からインストールする(詳細)」を選択し、[次へ]をクリックする。
5. 「検索しないで、インストールするドライバを選択する」を選択し、[次へ]をクリックする。
6. [ディスク使用(H)]をクリックする。
フロッピーディスクドライブに「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、製造元のファイルのコピー元に「a:¥」と入力し、[OK]をクリックします。
7. [Initio INI-A10XU2W PCI SCSI Controller]を選択し、[次へ]をクリックする。

ヒント ログテストに合格していない旨のポップアップが出る場合がありますが、システム上問題ありません。[OK]をクリックし処理を継続してください。

以上でドライバのインストールは完了です。
画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

■ SCSIコントローラ(N8103-75)を追加接続する場合

システムにSCSIコントローラ(N8103-75)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされますが、その後ドライバのアップデートが必要です。システムのアップデートを実施する事でドライバが適用されます。

■ SCSIコントローラ(N8103-56/95/N8190-126)を追加接続する場合

システムにSCSIコントローラ(N8103-56/95/N8190-126)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされますが、その後、ドライバのアップデートが必要です。システムのアップデートを実施する事でドライバが適用されます。

■ ディスクアレイコントローラ(N8103-80/81)を追加接続する場合

システムにディスクアレイコントローラ(N8103-80/81)を追加接続する場合、OSのプラグアンドプレイ機能が動作し、ドライバが自動でインストールされますが、その後、ドライバのアップデートが必要です。

以下の手順でドライバをインストールしてください。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]―[管理ツール]―[コンピュータの管理]から[デバイスマネージャ]を起動する。
2. SCSIとRAIDコントローラの「LSI Logic Megaraid SCSI 320-1/2」をダブルクリックする。
3. [ドライバの更新]をクリックする。
4. ハードウェアの更新ウィザードが表示されるので、「一覧または特定の所からインストールする(詳細)」を選択し、[次へ]をクリックする。
5. 「次の場所で最適のドライバを検索する」を選択し、[リムーバブルメディア(フロッピー、CD-ROMなど)を検索]チェックボックスをチェックする。
6. フロッピー ディスクドライブ に「Windows Server 2003 OEM-DISK for EXPRESSBUILDER」をセットして、[次へ]をクリックする。
7. [完了]をクリックする。

以上でドライバのインストールは完了です。
画面の指示に従ってシステムを再起動してください。

■ Boot.iniファイルで使用可能なスイッチオプションについて

Boot.iniファイルを編集することで、様々なスイッチオプションを使用することができます。使用可能なオプションについては、以下を参照してください。

● サポート技術情報-KB833721

Windows XPおよびWindows Server 2003のBoot.iniファイルで使用可能なスイッチオプション

4GBを超えるメモリを搭載できる装置では /PAE オプションの設定を行うことで 4GB を超えるメモリを使用できるようになります。

/PAE オプションは、サポートされている製品が限定されています。

以下のマイクロソフトサポート技術情報を参照して確認してください。

● サポート技術情報-KB291988

4GB RAMチューニング機能と物理アドレス拡張のスイッチの説明

以下に編集例を示します。

1. スタートメニューから[設定] をポイントして、[コントロール パネル]をクリックします。
2. 「コントロール パネル」から、[システム]アイコンをダブルクリックします。
「システムのプロパティ」画面が表示されます。
3. [詳細設定]タブから「起動と回復」にある[設定]をクリックします。
4. 「起動と回復」画面にある「起動システム」の[編集]をクリックし、「Boot.ini」を開きます。
5. 「Boot.ini」ファイルの[operating systems]に“/PAE”を追加し、上書き保存してください。

<Boot.ini ファイルの例>

```
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)¥WINDOWS
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)¥WINDOWS="Windows Server 2003" /fastdetect
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(2)¥WINDOWS="Windows Server 2003, PAE" /
C:¥CMDCONS¥BOOTSECT.DAT="Microsoft Windows 回復コンソール" /cmdcons
```

以上でBoot.iniへの編集は終了です。

ヒント

「起動/回復」画面にある「既定のオペレーティングシステム」で選択したエントリから自動的に起動するように設定することができます。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

■ メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

本体内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

重要

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生し、メモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューから[コントロールパネル]を選択し、[システム]をクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
2. [詳細設定]タブをクリックする。
3. [起動と回復]ボックスの[設定]をクリックする。
4. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。

＜Dドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合＞
D:¥MEMORY.DMP

ヒント

- デバッグ情報の書き込みは[完全メモリダンプ]を指定することを推奨します。ただし、搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、[完全メモリダンプ]を指定することはできません(メニューに表示されません)。その場合は、[カーネルメモリダンプ]を指定してください。
- 本装置に搭載しているメモリサイズ+12MB 以上(メモリサイズが 2GB を超える場合は、2048MB+12MB 以上)の空き容量のあるドライブを指定してください。
- メモリ増設により搭載メモリサイズが 2GB を超える場合は、メモリ増設前にデバッグ情報の書き込みを[カーネルメモリダンプ]に変更してください。また、メモリ増設により採取されるデバッグ情報(メモリダンプ)のサイズが変わります。デバッグ情報(メモリダンプ)の書き込み先ドライブの空き容量を確認してください。

5. [パフォーマンス]ボックスの[設定]をクリックする。
[パフォーマンスオプション]ウィンドウが表示されます。
6. [パフォーマンスオプション]ウィンドウの[詳細設定]タブをクリックする。
7. [仮想メモリ]ボックスの[変更]をクリックする。
8. [選択したドライブのページングファイルサイズ]ボックスの[初期サイズ]を推奨値以上に変更し、[設定]をクリックする。

重要

- 上記ページングファイルサイズはデバッグ情報(ダンプファイル)採取のための推奨サイズです。ブートボリュームには、ダンプファイルを格納するのに十分な大きさの初期サイズを持つページングファイルが必要です。また、ページングファイルが不足すると仮想メモリ不足により正確なデバッグ情報を採取できない場合があるため、システム全体で十分なページングファイルサイズを設定してください。
- 「推奨値」については、「作成するパーティションサイズについて(本書)」を参照してください。
- メモリを増設した際は、メモリサイズに合わせてページングファイルを再設定してください。

9. [OK]をクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

■ ワトソン博士の設定

ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッグです。アプリケーションエラーを検出するとシステムを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK]をクリックする。
[Windows ワトソン博士]ダイアログボックスが表示されます。
3. [ログファイルパス]ボックスに診断情報の保存先を指定する。
「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。

チェック

ネットワークパスは指定できません。ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ]ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。

ヒント

「クラッシュダンプファイル」は Windows Debugger で読むことができるバイナリファイルです。

5. [オプション]ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ダンプシンボルテーブル
- すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- 既存のログファイルに追加
- クラッシュダンプファイルの作成

それぞれの機能の説明についてはオンラインヘルプを参照してください。

6. [OK]をクリックする。

トラブルシューティング

Express5800 シリーズが思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容にしたがって Express5800 シリーズをチェックしてください。

リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理にしたがってください。それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

なお、ここに上げている症状は Windows Server 2003 R2 にて新たに発生するトラブルシューティングです。その他の症状につきましては、お手持ちのユーザーズガイドを参照してください。



Windows Server 2003 R2 の運用中、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース : IPMIDRV
種類 : エラー
イベント ID : 1001

説明 : IPMI デバイスドライバは、IPMI BMC デバイスがシステムでサポートされているかどうか判断しようとしていました。
このドライバは、SMBIOS の Type38 レコードを検索できることで IPMI BMC を検出しようとしていましたが、レコードが見つからないか、レコードにデバイスドライバのバージョンとの互換性がありませんでした。SMBIOS の Type 38 レコードが見つかった場合は、イベントの Dump Date フィールドにこのレコードがバイナリ表示されます。

→ Windows Server 2003 R2 において提供されている「ハードウェアの管理」を利用している場合、上記のイベントログが登録されます。
詳細な内容については、下記サイトにある「Windows Server 2003 R2 で提供される「ハードウェアの管理」利用の手引き」参照してください。

[NEC 8 番街:テクニカルインフォメーション]

<http://www.express.nec.co.jp/care/techinfo/techinfo.html>



Telnet サービスがインストールされていない

コンピュータ名を 14 文字以下にして、<Telnet サービスのインストール手順>に従って Telnet サービスをインストールしてください。

<Telnet サービスのインストール手順>

1. スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。
2. [名前]ボックスに「tlntsvr /service」と入力し、[OK]をクリックする。
3. スタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開き、サービスの一覧に Telnet サービスが登録されていることを確認する。

→ Telnet サービスのインストール後は、コンピュータ名を 15 文字以上に設定しても問題ありません。



運用中に、システムイベントログに次のような内容のエラー、および警告が記録される

イベント ID : 11
ソース : IANSMiniport
種類 : 警告
分類 : なし
説明 : 次のアダプタリンクは接続されていません。
Intel(R)PRO/1000 ~

イベント ID : 13
ソース : IANSMiniport
種類 : 警告
分類 : なし
説明 : Intel(R)PRO/1000 ~ がチームで無効化されました。

イベント ID : 16
ソース : IANSMiniport
種類 : エラー
分類 : なし
説明 : チーム#0、最後のアダプタはリンクを失いました。
ネットワークの接続が失われました。

イベント ID : 22
ソース : IANSMiniport
種類 : 警告
分類 : なし
説明 : ライマリアダプタはプローブを検出できませんでした。
Intel(R)PRO/1000 ~
原因でチームが分割されている可能性があります。

→ Teaming の設定をした場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LAN ドライバの動作上問題ありません。